

神戸市立博物館 外部評価書 (21年度)

使命(要点)

- 多様な神戸文化の特徴と東西文化交流の態様を明らかにし、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- 優れた文化・芸術にふれあう機会を「提供」し、新たな調査・研究を「提案」し、その成果を「発信」する博物館となります。
- 市民・利用者が集い、神戸を愛し、誇りとする拠りどころが得られる博物館になります。
- 震災と復興のなかで得た知見を発信していきます。

活動指針

- 市民が誇れる博物館 ○すべての人々に親しまれる博物館 ○地域の文化を支える博物館 ○情報発信をする博物館

活動目標	自己点検評価(第1次評価)		外部評価(第2次評価)	
	4段階評価	評価コメント	4段階評価	評価コメント
			総評	<p>自己点検評価(第1次評価)では『活動目標』ごとの評価がすべてB評価だったが、2次評価(外部評価)では『活動目標』の「すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします」と「芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします」をA評価とした。2次評価の方法として、各委員が『活動内容』の各項目ごとに評価し、各委員の『活動目標』の評価結果を集計して判定した。外部評価書では以下のとおり、『活動目標』ごとの評価とコメントを記し、『活動内容』については記さないが、『活動内容』のうち「学校との連携を図ります」について全員がA評価としたことは特に記しておきたい。</p> <p>2次評価は初めての取り組みだったが、予算の制約と目標設定のあり方、重点的な項目とそうでない項目との評価結果の集計方法の問題などが委員から指摘されている。評価の方法、目標の設定について検討が必要と思われる。また重点テーマの設定など、各委員の提言を活かした取り組みも含め今後の改善が望まれる。</p>
地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします 文化財を保存・継承していく博物館にします	B	館としての調査研究課題の設定や計画への取り組みは、まだ十分ではない。資料の情報開示については、電子情報としてHPを通じての市民への発信・提供を計画しているが、年次毎の明確な計画を立てる必要がある。資料の収集に関しては、現行の評価の観点に立て、予算上の問題が大きく、今後も予算が好転することが見込めない現状では、別の評価の視点を持って活動することも検討すべきと考える。	B	<p>《全体》 博物館の収集品を増加させ、活動をさらに活発化するために予算の大巾増が必要である。現在の予算による制約はやむをえないもので、評価の枠外とすべきであり、また評価の方法を別途考えていくべきである。 限られた予算配分の点からも各年度ごとの重点テーマを設定し、館全体でその推進にあたり、予算を好転させる企画、集客につながるアピールを工夫していただきたい。</p> <p>《調査・研究を積極的に進めます》 調査研究活動は時間的余裕ができれば更に深まるだろう。研究課題についてはより中長期的な設定や計画も必要となる。</p> <p>《「東西文化交流」と神戸の歴史に関わる文化財を永続的に収集します》 予算の制約で計画が推進できないことを強調する必要がある。</p> <p>《社会的資産としての文化財(館蔵品)を保全し、後世に伝えます》 資料の保存・継承のために必要不可欠な「〇資料の保全」の自己点検評価(C評価)を踏まえるならば、その上位の活動内容、活動目標の評価を平均だけでB評価にする評価の方法は見直すべきではないか。</p> <p>財政上の問題で資料収集がままならないのであれば、せめて収蔵資料の保全に予算を確保し、万全を期していただきたい。また収蔵庫を拡充して収集能力を確保することを要望していく時期である。</p> <p>《地域の歴史に関する情報を発信します》 地域の歴史に関する市民への情報発信は十分に行われ、地域資料も多く展示され、充実を目指していると思われる。 居留地以前の様子をパノラマ的に展示できないか。</p>
すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします	B	藤原切子、シアトル美術館展では、上質のガラス工芸品、日本美術品を展示した。海の回廊は、助成金を獲得し、考古、歴史、仏教美術の担当者が横断して創り上げた企画として意義深く、成果を映した。企画展では、所蔵品の中から浮世絵、銅版画に特化して展示し、所蔵品の幅を示し、展示に新生面を開いた。夏の企画展では、南蛮屏風、ザヴィエル像を展示し、また動物に特化したテーマは、当館の所蔵品と様々な階層の鑑賞者を結びつけた。ギャラリーは、所蔵の近代絵画を展示し意欲が認められた。自主企画展は、いずれも広報費が充分ではなかった。特別展でも作品の質に比して、目標の来館者数には至らなかった。常設展示は、新しい資料の意欲的な展示が望まれるが、トピックスを設けた展示は試みとして評価される。展示と講座を関連させるなどの新たな試みが望まれる。予算内でも展示の工夫は可能なはずで、来館者数にアピールするよう展示が望まれる。魅力のある新しい視点の掘り起こしが、自主企画特別展、企画展、常設展示に必要である。	A	<p>《全体》 「すぐれた芸術・文化」を身近に感じられる場所として、博物館の存在意義は大きい。小学生の時にミロのヴィーナスやツタンカーメン等を見に京都まで行ったが、まだその時の様子を覚えている。展示の仕方や企画等で工夫をして、来館者と共にある博物館にする試みは高く評価できる。今後とも児童生徒のために本物との出会い推進のための努力、来館者を魅きつけるアイデアある企画をお願いしたい。</p> <p>また特別展・企画展はともに学芸員の努力の成果であり、来館者数や広報費・予算云々にこだわった評価はすべきでない。</p> <p>《楽しく学べる魅力的な常設展示を行ないます》 《特色ある館蔵品を活かした展示を行います》 常設展は神戸をはじめ訪れた人に好評である。企画展で神戸についての最新情報を公開する。常設展でも展示替えされていること、すぐれた多くの館蔵品があることをもっとアピールしてもいいのではないか。若い層の市民が知らなすぎる。広報誌「KOBÉ」への掲載、駅貼り・車内つり等の情報公開は各年代層の掘りおこしと博物館事業の周知につながる。アピールが少なく、常設展への興味関心が薄れる。博物館の特長をアピールして、広報にさらに力を入れてください。</p> <p>「海の回廊展」は「館の横断的な組織」を活用し、館独自の視点も提示して大きな成果を上げ、高く評価することができる。今後「館の横断的な組織」を活用した企画を積極的にすすめていただきたい。</p> <p>《海外展などの特別展を開催します》 大型展をひらき、成功している数少ない博物館だと思う。海外からの展覧会は引き続き行って欲しい。また予算・企画が関係するが、特別展の展示品をもっと多くお願いしたい。</p> <p>注文をつけるのであれば、「藤原切子」展では、近代ガラス産業の中での歴史上の位置付など、もう少し歴史を意識した解説が加えられていてもよかったと思う。</p>
芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします	B	学校連携事業や講座などの教育普及事業については、ほぼ計画通りに実施できており、事業量的には満足できる水準に達している。アンケート分析などを通じての、市民および来館者のニーズ把握は十分にできているとは言いがたい。早急に対応等の実施を行うべきである。ボランティア活動に関しては、2年目を迎える活動目標は概ね達成できた。	A	<p>《全体》 他都市より学校や地域との連携がはかられ、様々な工夫を重ねて、教育普及をし、十分期待に応える事業を行っているが、地理上の制約を取り扱う工夫や、職員の過重な負担とその効果についてどこかで検討する必要がある。</p> <p>《学校との連携を図ります》 出張授業、公開講座など回数も多く、学校との連携事業が充分に実施されている。子どもの興味をそそる体験は今後も拡大して欲しい。効果は文化・歴史に興味を持つ子どもを増やし、将来の入場者数の増加として反映されるはずなので今後も頑張っていきたい。</p> <p>また学校現場からの要請に応じた研修会や学習会も実施され、資料や説明の内容も充実している。</p> <p>《広報活動を充実し、各種事業を広く紹介します》 博物館は展示事業を通じた生涯学習の場として必要であり、普及・広報活動の充実を図ることが重要である。メールを利用した広報活動、資金の獲得とも関連して博物館グッズの開発と売場面積の拡充(現状ではスペースがなく難しい?)を検討する。</p> <p>《ボランティア活動を通じて、人々が交流できる場を作ります》 神戸市民がリーダーとしてよく利用できる博物館であるために、人(ボランティア)の研修の充実などの工夫が必要である。</p>
すべての人々にやさしい博物館にします	B	これまでに、あらゆる項目について、ある程度の対応をとってきたが、予算的な制約もあり、完全なものとはならない。前年度に比し、変わった点は、館内案内業務スタッフの変更、警備業務スタッフの変更があり、このことによって、利用者に対する対応サービスがより親切丁寧になり、当館のイメージも上がったと思う。設備面においても多少機器機能の充実ができた。	B	<p>《誰でも利用しやすい施設、設備にします》 本来、博物館としての建物でないで、施設として無理や困難も多いが、十分対応している。キャパシティには限りがあるので、収蔵庫を外部の近くに備えることも考えるべきだと思う。</p> <p>《誰にでも喜ばれるサービスを提供します》 来館者への気配り、障害をもつ人へのサービスなどの向上は大いに評価できる。人の集まる施設だけに、対応サービスの改善は非常に重要である。</p> <p>展示と関連ある音楽の演奏会等、誰でも楽しめ、芸術とふれあう場とし、入館者増を計るのも一案である。</p> <p>《予算の充実に努めます》 自主財源の確保は至難のわざであるが、企業を含めた後援会基金の創設などの可能性を検討する。</p> <p>ハード面の改善など予算上の制約に左右され、改善点はあっても解決できないという点ははがゆい。予算上の問題に左右されずに館の努力が評価できる目標設定が望ましい。</p>

外部評価の平均スコアについて 委員評価(A~D)の平均による

A:4点, B:3点, C:2点, D:1点で算出。3.25点以上(A)、2.50点以上 3.25点未満(B)、1.75点以上 2.50点未満(C)、1.75点未満(D)